

月次レポート

第69号
2014年8月8日作成

ユニオンファンド

追加型投信／内外／株式
分配金再投資専用

～ マークのなかに託した私たちの想い ～

4世代(おじいちゃん・おばあちゃん、熟年世代、勤労世代、お子さんやお孫さん)をあしらいました。
ハンドinハンドで親近感や繋がり・絆を深め、
幸せの輪をひろげようという想いを込めています。

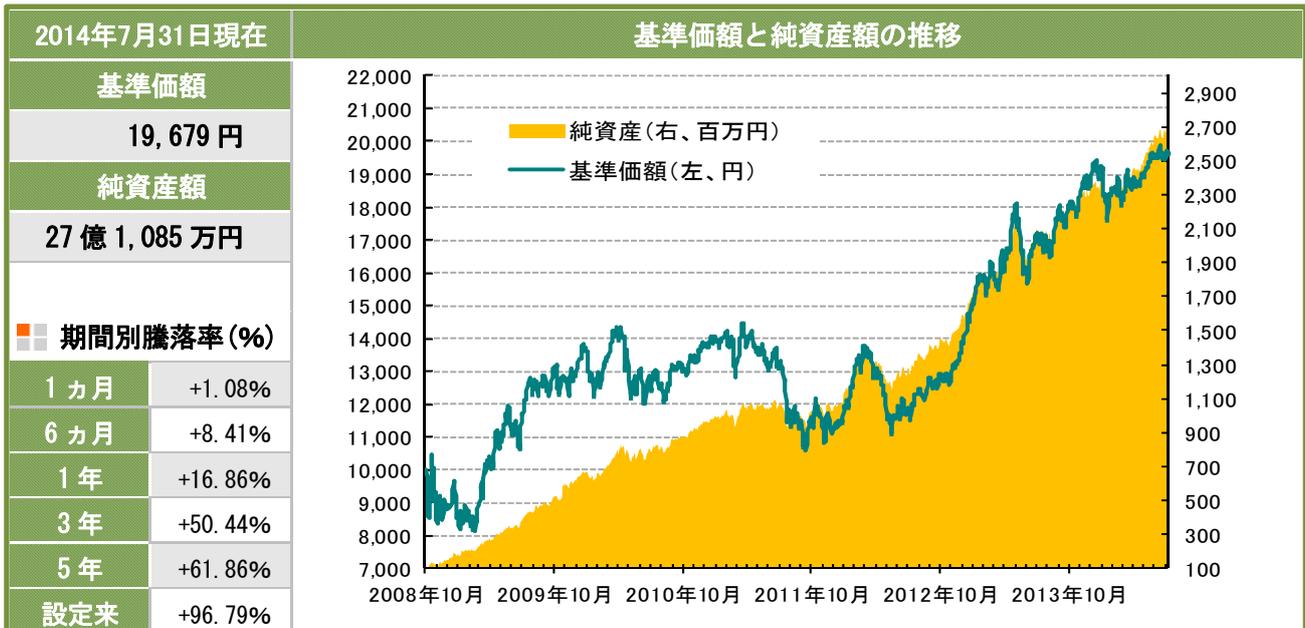


Union Asset Management Inc.
ユニオン投信株式会社

「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2014年8月8日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



*** 複利年率 +12.42%**

*「複利年率」とは設定から現在まで運用を行った結果、複利で換算した場合に何%でまわっていたかを表したものです。過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また個々の受益者ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

■ **組入れファンドの内訳** (組入比率は7/31 付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標投資比率	目標比
さわかみF	日本	10.8%	12%	-1.2%
キャピタルF	欧米	14.6%	18%	-3.4%
ハリスF	欧米	17.0%	23%	-6.0%
コムジエストF	新興国	36.2%	47%	-10.8%
キャッシュ	—	21.5%	—	—

《ご参考:組入れファンドの内訳(キャッシュ除きの実質組入比率)》

小数点第2位を四捨五入

「組入れファンドの内訳」は右上の表の通りです。
一方、ユニオンファンドは「キャッシュ比率(=投資比率)」をコントロールしています(…6/14 ページご参照)。

この「キャッシュ」を除いた「組入れファンドの“実質”組入比率(配分)」は右表の通りで概ね目標通りの組入となっております(7/31 付)。

ファンド名	主な地域	実質組入比率	目標投資比率	目標比(実質ベース)
さわかみF	日本	13.8%	12%	+1.8%
キャピタルF	欧米	18.5%	18%	+0.5%
ハリスF	欧米	21.6%	23%	-1.4%
コムジエストF	新興国	46.1%	47%	-0.9%

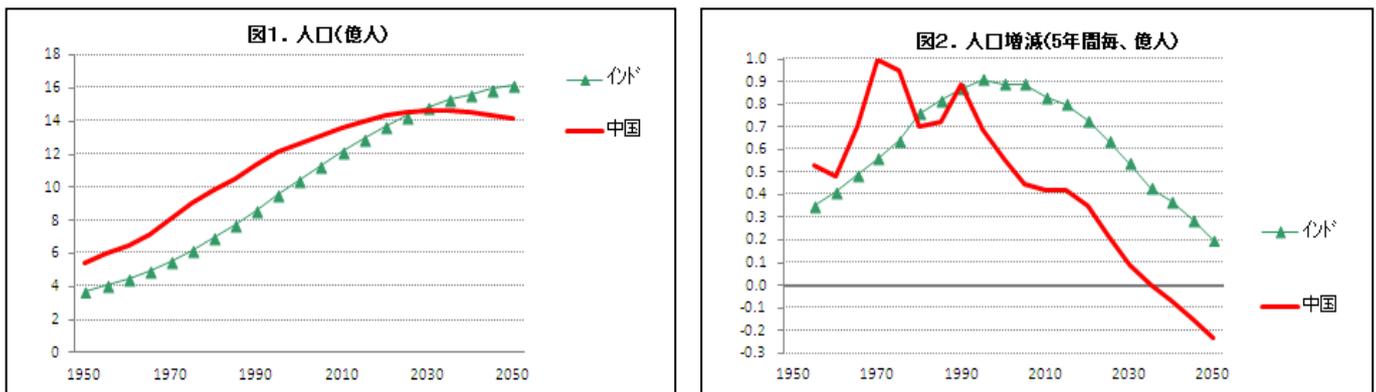
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見直し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「中国」と「インド」の現状・課題と今後の展望

このところ「値下がり」を続ける中国株価に対し、インド株価は「新高値更新」を続け対照的な動きとなっています。
「中国」と「インド」の現状・課題と今後の展望について比較してみました。

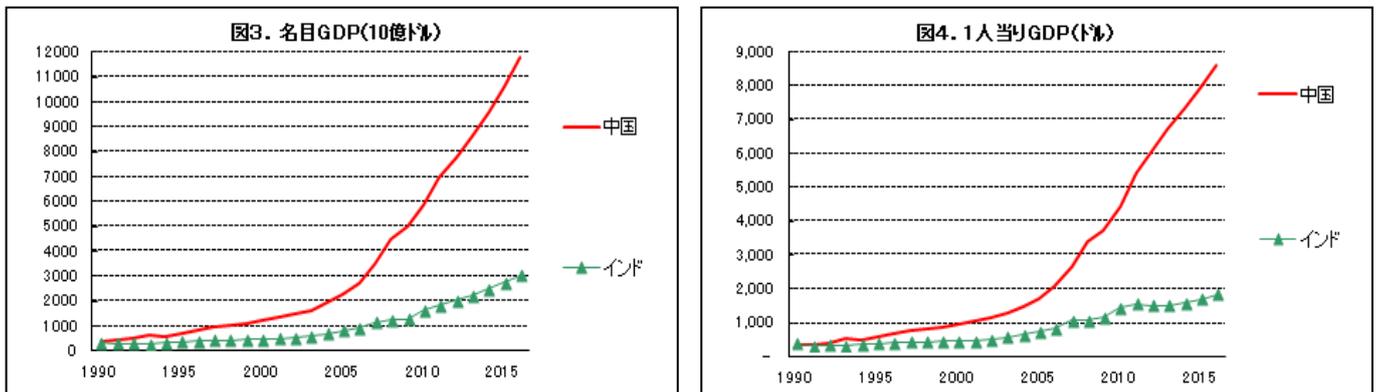
「人口」比較・・・2030年頃に人口逆転（図1、図2）

中国：人口「オーナス」(重荷)期に突入へ・・・労働力人口は既に減少、総人口も2030年には減少へ。少子高齢化時代に
インド：人口「ボーナス」(受益)期が続く・・・平均年齢は約25歳。豊富な若年労働力による高成長を享受する時代に



「名目GDP (=経済規模)」「1人当たりGDP (=所得)」比較（図3、図4）

1990年当時の両国の経済規模・所得は概ね同水準。しかし、現在は約「4倍」の格差に



両国の「格差拡大」の背景

中国発展の最大要因は製造業(第2次産業)の拡大(図5)・・・早々に「世界の工場」の地位を確立

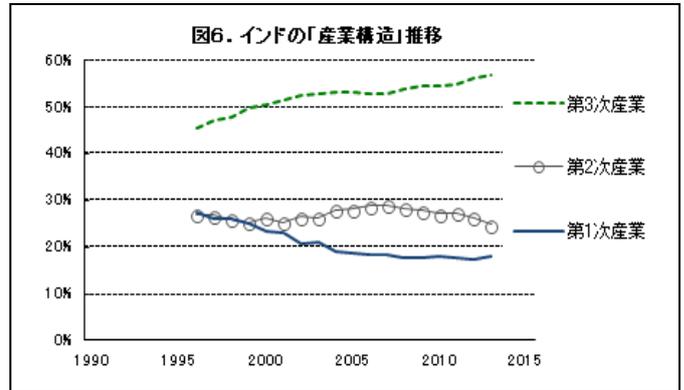
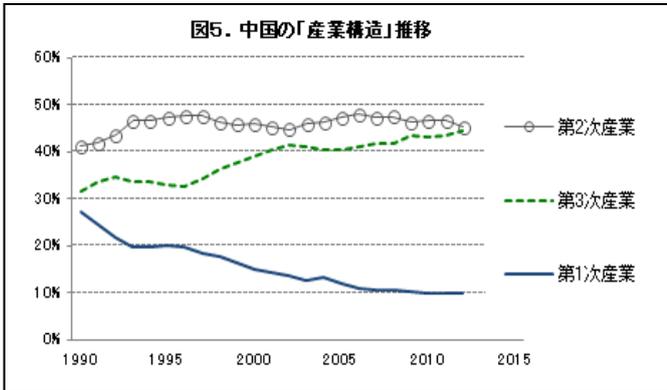
→ 農村人口は70%台から40%台に急低下

インド発展の遅れは製造業の低迷(図6)・・・農村人口は未だ70%台のまま

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

上記「製造業」発展格差の背景は「政治体制」によるところ大

- 中国 : 共産党一党独裁下で国家資本主義を推進(絶対権力による政策遂行。反対者を封じ込め) 積極的外資導入による輸出拡大を推進
- インド : 世界最大の民主主義国家。民意を尊重 → 農地買収(土地収用)問題などがネック 零細個人企業を保護 → 外資導入に著しい遅れ



格差は「経常収支」に反映

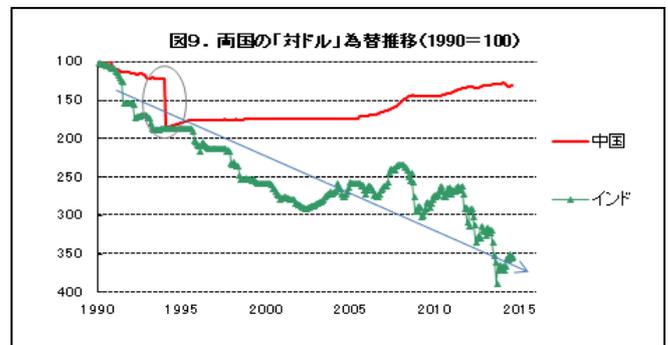
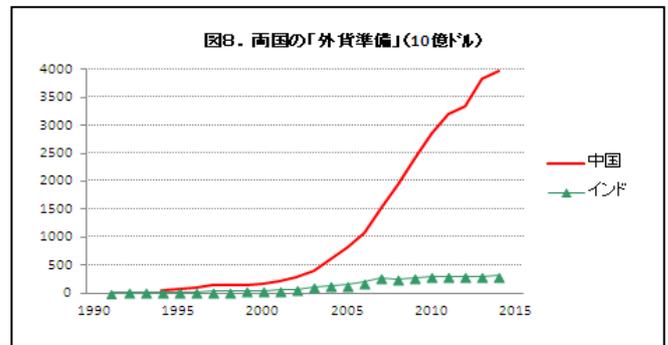
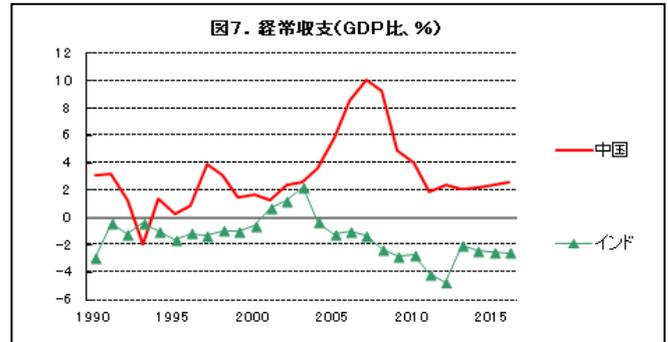
「製造業」格差は「国際競争力」「商品競争力」「経常収支」に反映(図 7)

中国: 世界一の「経常黒字」国に(図 7)
(=外貨準備世界一、図 8)

- ◇1994 年に人民元を大幅切り下げ(図 9)
- 同時にドル連動性を採用し米国企業の誘致を積極化
- ◇2003 年以降「欧米住宅バブル」で輸出が急増し、「経常黒字」が急拡大(図 7)
- ◇巨額「経常黒字」を背景に世界第 2 位の経済大国へ

インド: 恒常的な「経常赤字」国(図 7)
(=外貨準備は僅少、図 8)

- ◇製造業の立ち遅れから輸出目玉商品なし
- ◇為替は「変動制」を採用。「経常赤字」が続き、為替は長期ジリ安基調(図 9)
- ◇恒常的資金不足・構造改革停滞により中国との経済格差が拡大



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

中国の課題

「投資拡大＋人民元低め誘導」により巨額「経常黒字」を長期間継続

→ 大きな成果の一方、代償も大

- ＜主な代償＞
- ① 過剰設備 → 企業業績低迷
 - ② 過剰流動性 → 不動産バブル・地方政府債務問題
 - ③ 環境汚染 → 大きな社会問題化
 - ④ 所得格差拡大 → 共産党政権への不平・不満増大

【直面する課題】

1. 労働力不足による「人件費高騰」…背景①生産年齢人口の減少、②出稼ぎ農民工の不足
2. 過剰流動性対策としての「人民元切り上げ」

⇒ 上記「高賃金」「通貨高」は輸出競争力にマイナス

これまでの「成長モデル」(汎用品の大量生産・大量輸出)が限界に
環境汚染・社会保障など社会コストも増大

⇒ 低成長時代に突入…産業構造の高度化・高付加価値化への取り組みが急務

インドの課題と期待

インドが抱える課題は多い

- ① 脆弱なインフラ、② 規制の壁、③ 汚職の蔓延、④ 教育の遅れなど

一方、今後の期待も大きい

- ① 成長期の初期段階にあり、発展可能性は極めて大(豊富な若年労働力の魅力大)
- ② 既に製造業拡大がスタート
- ③ モディ新政権の「構造改革」に対する「期待」は大

「実態」よりも「期待」を反映する株式市場 (図 10)

【中国】

経済「実態」はインドをはるかに凌駕していますが、不動産バブル崩壊リスク・成長鈍化見通しなどから株式市場は長期低迷が続いています。

【インド】

経済「実態」は極めて低水準ですが、それ故に成長可能性が高く株式市場はモディ新政権の改革でインドが中国に代わる「世界の工場」になることを期待し、株価を押し上げています。

新政権が国民の「痛み」「反発」を乗り越え、どこまで構造改革を進めることが出来るかが、今後の株価推移のポイントとされます。

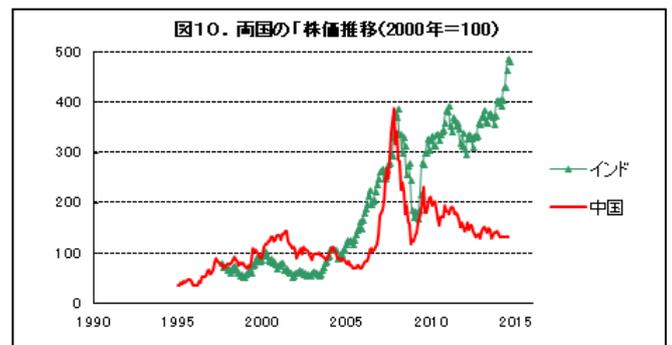


図 1～10 の出所: 国連、IMF、中国国家統計局、インド統計計画実行省、Yahoo!ホームページ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する
ファンドの中から実績を挙げってきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ ユニオンファンドはグローバルな成長を平均的・安定的に享受するため、世界の株式時価総額シェアを基準に地域別「目標投資比率」を決め、それに基づいて投資しています。現状では、世界の株式時価総額シェアに比べ、「日本」と「新興国」のウェイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場

「新興国」 : 伸び盛りの高成長市場

「欧米」 : 成熟した低成長市場

■ 7月の株式市場は、6月に続き概ね高値圏・横ばいの動きでした。

その中では、欧米先進国市場が高値警戒感などからやや値下がりし、一方日本・新興国市場が出遅れ感などからやや値上がりしました。

■ 7月の基準価額推移・・・概ね横ばいで推移し、月末は19,679円(前月末比+1.1%)で終了しました。

■ 7月も新規組入れ(買い増し)を見送り、月末の組入比率は前月末比1.3%減の「78.5%」となりました。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

・市場は引き続き下記リスクを内在しています。

米 国: 超金融緩和「縮小」、金利「引き上げ」、住宅市場「回復の一服」

欧 州: 南欧債務問題の再燃(ポルトガル第2位の銀行「BES」問題など)、デフレ懸念

日 本: アベノミクスの行方(成長戦略の実効性、財政再建への懸念)

中 国: 不動産バブル崩壊、地方政府債務問題の顕在化(影の銀行問題)

ロシア: 経済制裁による景気急減速懸念、欧州経済への波及懸念

地政学的リスクの拡大: イスラエル・パレスチナ、ウクライナ、シリア、イラク、エジプトなど

・欧米中心に株価高値警戒感が高まっており、引き続き小型成長株を中心に利益確定売りの出易い神経質な展開を予想しています。

● 目標組入比率

現在の「目標組入比率: 70~100%」を維持します。

株価が大幅に下落する局面では買い増しを行い、実際の組入比率を引き上げる方針です。

● 地域別目標投資比率

現在の「地域別目標投資比率」を維持します。

・・・日本: 12%、欧米: 41%、新興国: 47%

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標投資比率

現在の「ファンド別目標投資比率」を維持します。

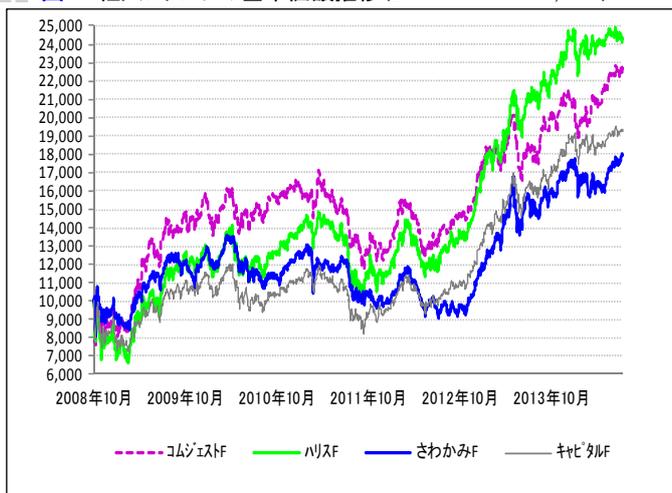
・・・「さわかみF」: 12%、「キャピタルF」: 18%、「ハリスF」: 23%、「コムジェストF」: 47%

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

今月は「さわかみF」が相対的に上昇。
7月1か月間の騰落率は次の通り。
・・・「ハリスF: ±0.0%」、「コムジエストF: +1.3%」
「キャピタルF: +1.6%」、「さわかみF: +4.2%」

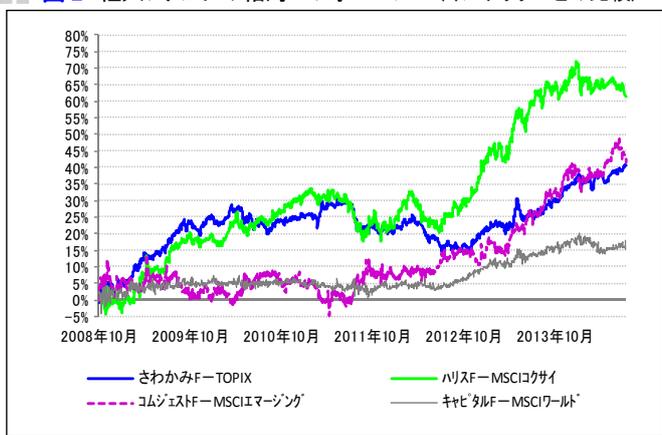
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「ハリスF」・・・設定来 63%凌駕
「コムジエストF」・・・同 43%凌駕
「さわかみF」・・・同 40%凌駕
「キャピタルF」・・・同 16%凌駕

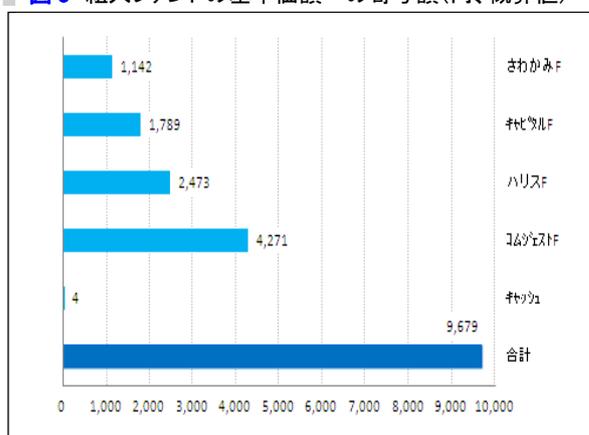
>> 図3 寄与額

7月末の基準価額が19,679円となっていることから、9,679円の評価益に。月末時点の寄与額内訳は第3図の通り。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

「時価総額シェア」・・・

新興国: 最近、低迷から底打ち反転の気配

欧 米: 最近、低下気味

日 本: 最近、やや上昇

「地域別目標投資比率」・・・

日 本: 12% (シェア比+ 5%)

欧 米: 41% (シェア比▲22%)

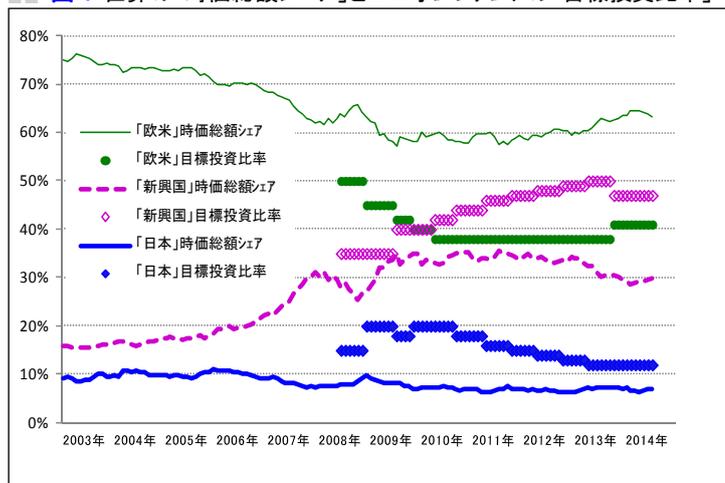
新興国: 47% (シェア比+17%)



運用部長 (ファンドマネージャー)

坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所)「時価総額シェア」: ユニオン投信株式会社調べ

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

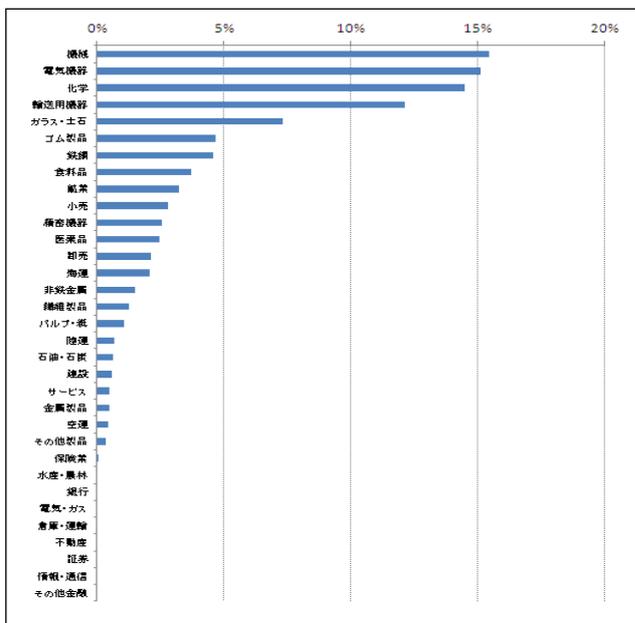
■ さわかみF（さわかみファンド）

■ 株式組入上位 10 銘柄等

2014年7月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	トヨタ自動車	5.2%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
2	ブリヂストン	4.5%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
3	国際石油開発帝石	3.1%	日本	鉱業	石油メジャー
4	日本特殊陶業	2.9%	日本	ガラス・土石	プラグ・センサー世界首位
5	三菱重工	2.8%	日本	機械	世界的総合重機メーカー
6	花王	2.8%	日本	化学	トイレット紙首位
7	ダイキン	2.7%	日本	機械	エアコン世界首位
8	デンソー	2.5%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
9	日本電産	2.5%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
10	パナソニック	2.1%	日本	電気機器	総合家電大手
	上位 10 銘柄	31.1%			
	その他 109 銘柄	65.3%			
	キャッシュ	3.6%			

■ 業種別構成比



業種：東証 33 業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

◆業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。

組入銘柄数はピークの約 1/3 まで絞り込み。

◆ポートフォリオの特徴は、

(1) 「機械」「電気機器」「化学」「輸送用機器」「ガラス・土石」「ゴム」「鉄鋼」など“ものづくり”，“輸出型”企業の比率大。

(2) “内需型”企業では「金融」「通信」「不動産」「倉庫」「公益」などの比率を抑え、「食料品」「小売」「医薬品」など“生活関連”にシフト。

◆7月には約 20 銘柄の売却。買付はなし。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドクラスA)

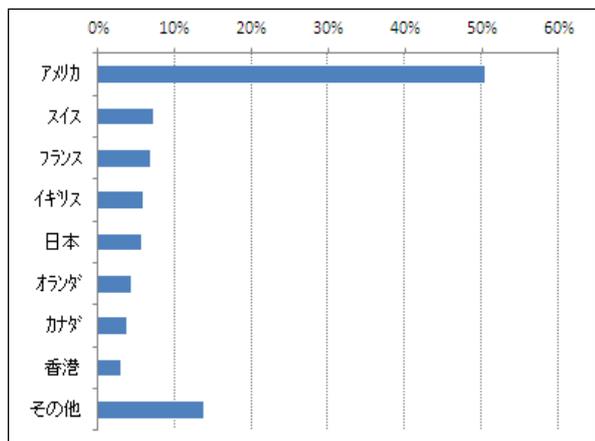
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2014 年 6 月末現在

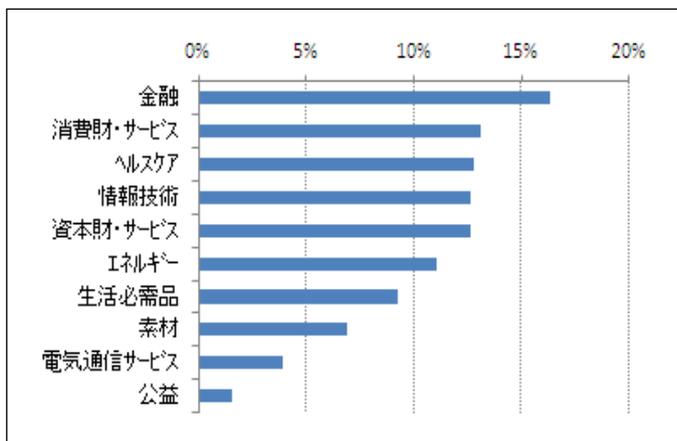
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Gilead Sciences	3.6%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
2	Roche	2.4%	スイス	ヘルスケア	医薬品バイオ
3	Goldman Sachs	2.3%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行
4	Chevron	2.2%	アメリカ	エネルギー	石油スーパーマジャー
5	Google	2.1%	アメリカ	情報技術	ネット検索世界一
6	Novo-Nordisk	2.0%	デンマーク	ヘルスケア	医薬品バイオ
7	Pernod Ricard	1.7%	フランス	生活必需品	洋酒大手
8	Unilever	1.6%	オランダ	生活必需品	家庭用品大手
9	American Tower	1.6%	アメリカ	金融	携帯基地局リース
10	Eaton	1.5%	アメリカ	資本財・サービス	産業用機器メーカー
上位 10 銘柄		21.0%			
その他 150 銘柄		76.6%			
キャッシュ		2.4%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資 (150 銘柄程度)。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 半年前に比べ、景気敏感の「エネルギー」「素材」が増加し、「消費財」「金融」が減少。
しかし「金融」は組入トップが続く (約 16%)。
- ◆ 「ヘルスケア (バイオ)」「金融」「生活必需品」などの組入上位 10 銘柄に「エネルギー」が新規加入。

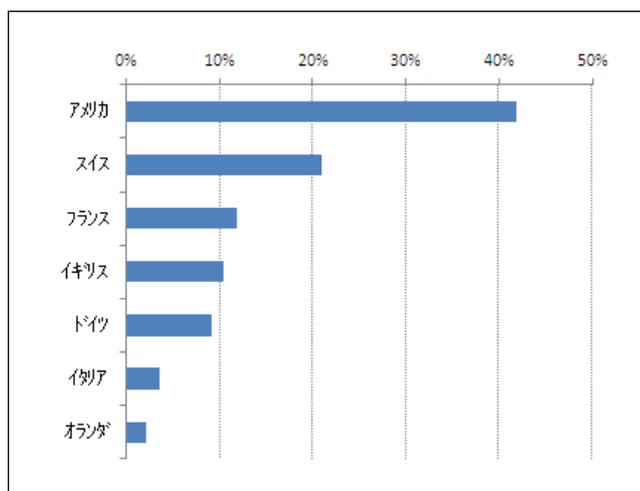
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書 (交付目論見書) の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2014 年 6 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	GENERAL MOTORS	4.3%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ 3 の一角
2	WELLS FARGO	4.0%	アメリカ	銀行	金融大手
3	ALLIANZ	3.9%	ドイツ	保険	総合保険大手
4	INTEL	3.8%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
5	JULIUS BAER	3.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク
6	CREDIT SUISSE	3.8%	スイス	各種金融	金融大手
7	BNP PARIBAS	3.6%	フランス	銀行	金融大手
8	AIG	3.6%	アメリカ	保険	総合保険大手
9	CNH INDUSTRIAL	3.6%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー
10	EXPERIAN	3.6%	イギリス	商業・専門サービス	信用・マーケティング情報の分析サービス
上位 10 銘柄		38.0%			
その他 29 銘柄		55.5%			
キャッシュ		6.5%			

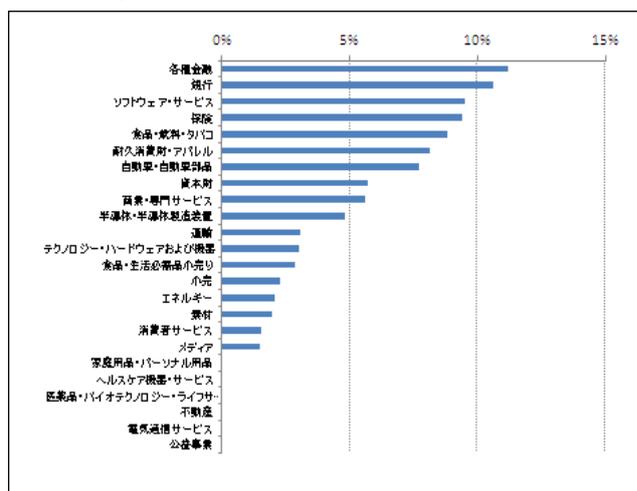
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2014 年 7 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本除きの世界各国に投資。
- ◆ 「金融」が最大の投資セクター(組入比率: 約 31%)。パフォーマンスへの貢献度は大。業績好調なカード会社や資産運用会社などの比率を高め銘柄選択効果を効かせている。
- ◆ 「金融」以外では、景気敏感セクターの「ソフトウェア」「自動車関連」「資本財」「半導体」や割安な「食品」「アパレル」「商業サービス」などのウェイトを高めている。
- ◆ 「株価が目標圏に到達した銘柄の利食い・割安株の買い付け」を活発に行っているが、最近では割高となった「素材」「半導体」などを引き下げ、割安な「資本財」「ソフトサービス」「アパレル」「テクノロジー関連」などを引き上げ。

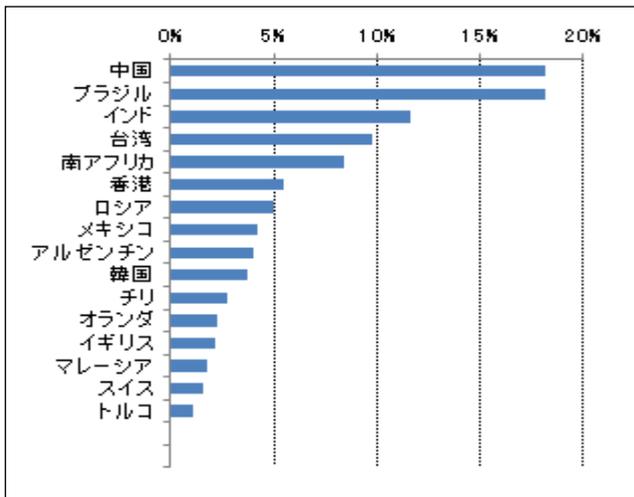
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2014 年 7 月末現在

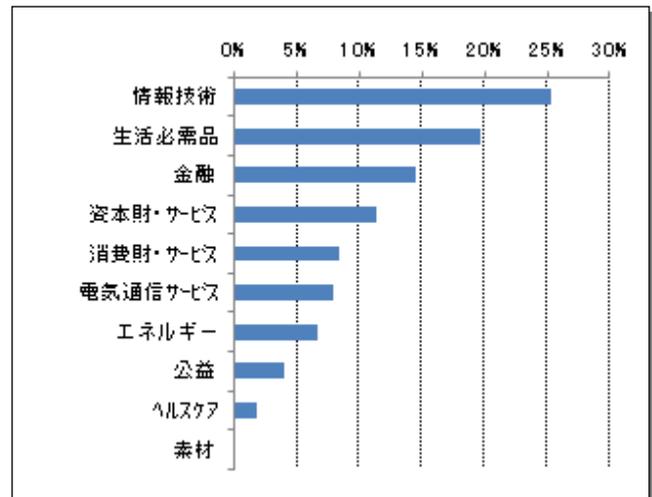
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	6.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	CHINA LIFE	5.1%	中国	金融	生保
3	CHINA MOBILE	4.6%	中国	電気通信サービス	携帯電話
4	SANLAM	4.0%	南ア	金融	資産運用
5	TENARIS	3.9%	アルゼンチン	エネルギー	シームレスパイプ大手
6	HUTCHISON WHAMPOA	3.4%	香港	資本財・サービス	コングロマリット(港湾・不動産等)
7	INFOSYS	3.3%	インド	情報技術	ITソフト総合サービス
8	MEDIATEK	3.2%	台湾	情報技術	半導体設計
9	MTN	3.0%	南ア	電気通信サービス	携帯電話
10	CIELO	3.0%	ブラジル	情報技術	クレジットカード決済
	上位 10 銘柄	39.6%			
	その他 30 銘柄	56.7%			
	キャッシュ	3.7%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 質の高い新興国企業(新興国売上比率の高い先進国企業含む)を 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆ 類まれな事業基盤を有し長期的高成長が期待できる企業に選別投資。
銘柄選択基準は、①景気循環の影響を受けにくく予測し易い業績、②健全な財務体質、③的確な情報開示など。
- ◆ 新興国市場の主要セクターは「資源・エネルギー」や「金融関連」に大きく偏っているが(BRICs 諸国では概ね 5~6 割程度)、当ファンドは「情報技術」「生活必需品」「資本財」などに高ウェイト(資源・金融は 1~2 割程度)。
このため新興国市場が市況高(資源・原油高)で上昇する場合は追従できないことが多い。
しかし市況の下落局面では当ファンドは下げ渋ることが多く、長期的な相対パフォーマンスは良好。
- ◆ 最近では、①「情報技術(半導体・ネット関連)」や金融(保険・クレジットカードなど)の比率を高めたこと、
②活躍してきた「素材」関連をゼロにしたこと、③割高になった「生活必需品」「消費財サービス」を低めたこと
などから好調な実績。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

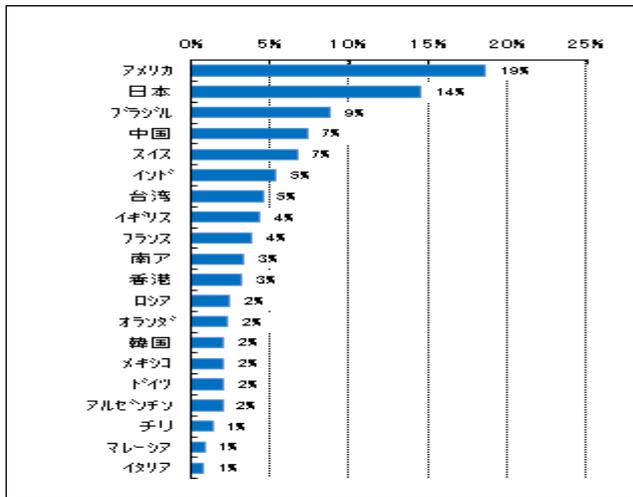
ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

■株式組入上位 30 銘柄等

2014年6月末現在

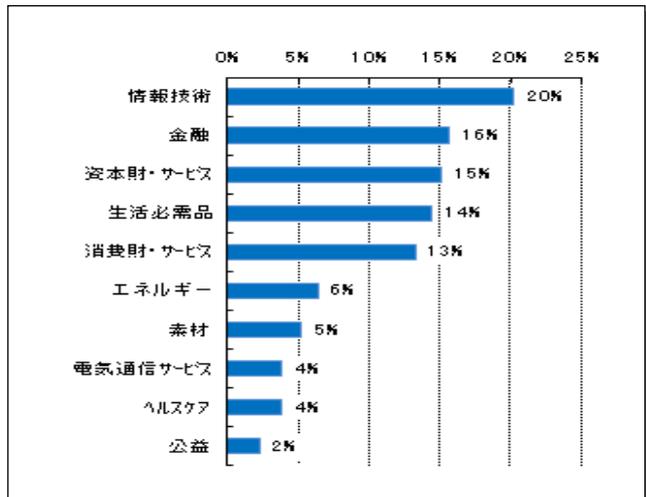
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	2.8%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	CHINA MOBILE	1.9%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
3	TENARIS	1.9%	アルゼンチン	エネルギー	シームスハイブ大手	コムジェストF
4	CHINA LIFE	1.8%	中国	金融	生保	コムジェストF
5	HUTCHISON WHAMPOA	1.6%	香港	資本財・サービス	コングロマリット(港湾・不動産等)	コムジェストF
6	SANLAM	1.6%	南ア	金融	資産運用	コムジェストF
7	CIELO	1.6%	ブラジル	情報技術	外資系カード決済	コムジェストF
8	MEDIATEK	1.5%	台湾	情報技術	半導体設計	コムジェストF
9	NATURA COSMETICOS	1.4%	ブラジル	生活必需品	化粧品	コムジェストF
10	EMPRESAS COPEC	1.3%	チリ	エネルギー	コングロマリット(木材・ガソリンスタンド等)	コムジェストF
11	GENERAL MOTORS	0.9%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ3の一角	ハリスF
12	WELLS FARGO	0.9%	アメリカ	銀行	金融大手	ハリスF
13	ALLIANZ	0.9%	ドイツ	保険	総合保険大手	ハリスF
14	INTEL	0.8%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
15	JULIUS BAER	0.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
16	CREDIT SUISSE	0.8%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
17	BNP PARIBAS	0.8%	フランス	銀行	金融大手	ハリスF
18	AIG	0.8%	アメリカ	保険	総合保険大手	ハリスF
19	CNH INDUSTRIAL	0.8%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー	ハリスF
20	EXPERIAN	0.8%	イギリス	商業・専門サービス	信用・マーケティング情報の分析サービス	ハリスF
21	トヨタ自動車	0.7%	日本	輸送用機器	自動車世界大手	さわかみF
22	Gilead Sciences	0.7%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ	キャピタルF
23	ブリヂストン	0.6%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位	さわかみF
24	Roche	0.4%	スイス	ヘルスケア	医薬品バイオ	キャピタルF
25	国際石油開発帝石	0.4%	日本	鉱業	石油メジャー	さわかみF
26	Goldman Sachs	0.4%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行	キャピタルF
27	Chevron	0.4%	アメリカ	エネルギー	石油スーパーメジャー	キャピタルF
28	Google	0.4%	アメリカ	情報技術	ネット検索世界一	キャピタルF
29	Novo-Nordisk	0.4%	デンマーク	ヘルスケア	医薬品バイオ	キャピタルF
30	花王	0.4%	日本	化学	トイレット首位	さわかみF
	上位 30 銘柄	30.5%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
	その他 328 銘柄	49.3%				
	キャッシュ	20.2%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■業種別構成比



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> コメント

- ☆組入銘柄数：358、投資国数：22 カ国。
- ☆組入上位 30 銘柄明細：40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比：アメリカが1位で19%、日本が2位で14%、3位以下はブラジルの9%など新興国が続く。
主要新興国ではブラジル・中国・インド・南ア・ロシア・メキシコの順。
- ☆業種別構成比：「情報技術」「金融」「資本財」「生活必需品」「消費財」の上位5業種で約8割を占める。
最近6ヵ月間の業種別動向：「情報技術」「資本財」「エネルギー」が増加し、「消費財」「素材」「金融」が減少。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

弊社役員から、みなさまへのメッセージ

本月初レポートの5/14ページをご参照願います。

今回は弊社取締役の清水より【約束を守る・嘘をつかない・ごまかさない】と題し、メッセージとさせていただきます。

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、**投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。**

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続き・手数料等」をご覧ください。 －

【申込手数料】 … お申込みにあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】 … ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

【信託報酬】 … 純資産総額に年0.864%（税抜き 年0.8%）の率を乗じて得た額です。

毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬* 信託財産の純資産総額に対して年1.9%±0.3%（概算）]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】 … 信託財産留保金はありません。

【その他の費用】 … 『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ 残高情報、評価金額等のご確認について ◆

お取引いただいている「ユニオンファンド」の残高情報、評価金額等をご確認いただく方法は、弊社業務管理部までお電話にてお問い合わせいただく方法か、お取引の都度お送りしております「取引報告書」にてご確認いただく方法がございます。

【お電話にてお取引状況をご確認いただく場合】

弊社業務管理部 (TEL:0263-38-0725) までご連絡ください。(営業時間: 平日 9:00~17:00)
直近の取得金額(ファンド購入充当額)、残高口数、取得単価、評価金額をご確認いただけます。

【「取引報告書」にてご確認いただく場合】

報告書内にあります「取引後残高」項目をご確認ください。
こちらは、「作成基準日現在」における残高口数、評価金額等の明細が表示されます。

「取引後残高」・・・ユニオンファンドの保有残高口数です。

「取得単価」・・・お客様の取得単価の平均値です。

「投資元本」・・・お客様の損益のもととなる金額です。(投資されている元本金額)

「評価金額」・・・作成基準日現在におけるお客様の「評価金額」です。

(「評価金額」=「取引後残高」×「約定日の基準価額※」÷10,000)

※ 「約定日の基準価額」は報告書内「取引明細」項目にあります「1 万口あたりの単価」です。

◆ ユニオンファンドの「スポット購入」について ◆

スポット購入は、ご指定させていただきました弊社の「ファンド購入用振込先口座」へ、お客様より都度お振込みいただくことで購入できるものです。弊社へ口座をお持ちのお客様全員がご利用いただけます。弊社にてお客様からのご入金を確認後、翌々営業日の基準価額にて購入させていただきます。購入金額は「1 万円以上 1 円単位」で承っております。販売手数料はいただきません。

【「ファンド購入用振込先口座」について】

弊社へ口座開設いただいた際に、お客様ごとに専用の口座をご指定させていただいております。

お振込みいただく際は、「振込依頼人」名を必ずお客様ご自身のお名前をお願いいたします。

なお、お客様よりお振込みいただいた時点で弊社にてお客様の特定ができますので、お振込み後に弊社へお電話等でご連絡いただく必要はございません。

※ 「ファンド購入用振込先口座」につきましては、口座開設いただいた際に弊社より簡易書留郵便にてお送りいたしました「総合取引口座【新規】お客さま控え」に記載されております。

(お客さま控えは再発行できますので、ご希望される場合は弊社までご連絡ください。)

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。